

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	門脇 賀智志
------	--------

主な担当科目	管弦楽Ⅰ①,管弦楽Ⅰ②,室内楽Ⅰ,室内楽Ⅱ,室内楽Ⅳ,室内楽Ⅵ,室内楽演習Ⅱ,修士管弦楽特別演習②
--------	---

2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	ウィークポイントを克服する練習と得意なことを伸ばす練習とのバランスを大切にしたい。特にウィークポイントを直す時にあまりにも高い壁を設定しすぎないように注意を払いつつ学生を鼓舞したい。オーケストラ、室内楽においては事前準備の徹底を当たり前のこととして浸透させたい。楽器に関しては上達のポイントはいかに自主性を持って練習するかだと考えるので、いかに学生がモチベーションを維持するかということを重要に考えたい。
2025年の教育に関する自己評価	課題を多く与えて短い時間でも集中して練習することは徹底できたと思うが、進捗のスピードが各々の学生に依って異なるので配慮がとても必要だと感じた。また、モチベーションに関しては個人で目標が違ふこともあり、練習オンリーとは行かないことも感じられたが、目の前にある課題に対し全力を尽くすことが大切だということは伝えられたと思う。

2025年のFD活動に関する自己評価	全体研修会では新セメスター制の内容や在り方(意義)について理解を深めることが出来た。少ない科目を集中的にやり、学修効果のアップ、自己設計がし易く計画の軌道修正がやり易い。特に学生のキャリアプランの可能性が広がったことに注目したい。→留学や別のキャリアの修学など。また9月に卒業できることで音楽大学としての昭和の特色が最大限に発揮できると考える。
授業改善のために取り入れた研修内容	平時のコミュニケーションの重要性、報連相が上手くいっているか、教員、職員間でもとても重要であるが、学生との間でも非常に重要だと感じた。このことと関連して、授業内でも3つのハラスメント、セクハラ、パワハラ、アカハラについて考え、軽率な行動を取らないよう注意した。個人レッスンなどでも本人のタメになっているか、機嫌で叱ることがないように、人前で叱らない。※イラストしたら6秒数える。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3350 教員名:門脇 賀智志

1)アンケート結果に対する所見

アンケートの回答数が 3/13 で全員でなかったことは残念だが、全員の満足度が 100%だったのは良かったと思う。ただし、Q6 の「このレッスンは分かりやすくするための工夫がなされている」の結果を見るとさらに改善されなければと強く思った。さらに、レッスンの中で新しい情報や教材を取り入れる必要があると思う。

2)要望への対応・改善方策

私自身の更なる勉強、また学生が何を求めているのかを注意深く探る必要も不可欠であると考え。目先のことだけではなく長いスパンで学生がどうすれば伸びるかを考えたい。その場合において指導する時の話し方などの工夫も考える必要があると思う。

3)今後の課題

学生が何を求めているのかを知り、そのための良い教材を見つけることが必要である。経験だけに頼ることなく私自身の新しい学びが必要だと痛感している。また、学生の欠点だけを矯正するだけでなく学生の持っている長所も大いに伸ばして行きたい。

そして、学生にとって今何が足りないのかを明確に認識させることも必要だと思う。さらに、私に頼りすぎることなく学生自らが考えて練習の仕方や楽曲の分析が出来るように全力でサポートして行きたい。

以 上